

2021年11月号 No.221

唾液の続き

今月は歯科医師、神農泰生が担当です。さて、今月のテーマは「唾液」です。

そう、前回担当時と同じテーマです・・・(イッパイハナスコトアルンダモン)

前回は大雑把な唾液の役割と、その中でむし歯に絡む機能について書きました。今回はちょっと歯科からは離れますが、時勢に後押しもあるので唾液の「免疫」機能にフィーチャーしてみます。前回は「唾液には免疫の機能もあります。飛沫感染や空気感染の入り口は目、鼻、口でほぼ100%になるので、人体の仕組みとしては口の免疫機能を用意しているのです。その役目を唾液が主に行っているというわけなんですね。」と、まあ、ほんとに簡単にしか説明していませんでした。今回はもうちょっと詳しく。

そもそも、免疫とは有害な異物(細菌、ウイルス、毒素)を無害化する人体の仕組みです。その仕組みもいくつか種類があり、その中の一つが抗体による免疫機能です。異物にオーダーメイドの抗体がくっつくことで無害化し、体外への排出をしやすくする仕組みです。抗体の量は血液中が最も多く、7割が血中に存在します。この血液中に存在する抗体を使って体内に入ってしまった異物を標的とするのが最も重要な抗体免疫の役割です。一方で、唾液(と鼻水などの体液)の中にも抗体が1割ほどあり、これらによる免疫はちょっと役割が違って、異物が体内に入ってくる「前」に無害化するのが仕事です。言ってみれば、人体の門番の役割ですね。なので、唾液の減少は感染のしやすさに直接関わってきます。

唾液、マジ大事。

余談ですが、抗体も実はいくつか種類が分かれていて、唾液などの中の抗体はほとんどが抗体の中でもIgAと呼ばれるものです。それに対して血液中の抗体はIgGと呼ばれるものが主となっています。昨今話題の抗体検査は何も指定が無ければIgGの量を量っているケースがほとんどだったりします。

で、この免疫についての話は抗体のオーダーメイドの仕組みやら日本人ノーベル賞研究者の活躍だとかアレルギーと免疫の関係だとか、ここから面白くなってくるんですが書くスペースは全く足りません。そんなあなたに「はたらく細胞」を。

突然の宣伝みたいですが、「はたらく細胞」と言うマンガの紹介です。人体の仕組みを細胞を擬人化してわかりやすく教えてくれる教育？マンガです。面白いし、間違ってること(というか当時と変わった事実)の記載はほとんど無いし、子供でもわかりやすく、おすすめ。派生作品として「BLACK」とか「BABY」とかもあって、特に「BLACK」は読んで身につまされる人も多いかも・・・興味があれば是非見てみてください。

唾液をうまく活用して、お口の健康も含めて皆さん健康な生活を！と言うことで今月はおしまいです。



初めまして。新しく10月から入りました向井裕美です。広島県の瀬戸内海に浮かぶ小さな島の出身です。休みの日は、ハンドメイドアクセサリー作りやネコ動画を見て癒されています。歯科でのお仕事は初めてで、日々勉強させて頂いております。これから助手として微力ながらお手伝いさせて頂く機会もあるかと思っておりますので、よろしくお願い致します。

11月4日・11日・18日(木)は休診です。

25日(木)は、午前診療です。宜しくお願いいたします。



医療法人 SHT

まき歯科・矯正歯科クリニック

Smile Health Thanks

〒700-0975 岡山市北区今3-1-35

TEL 086-243-1006

FAX 086-243-1106

HP: <http://www.maki-dental.jp>

Mail: makishika@do5.enjoy.ne.jp

←Instagramはこちらから！

